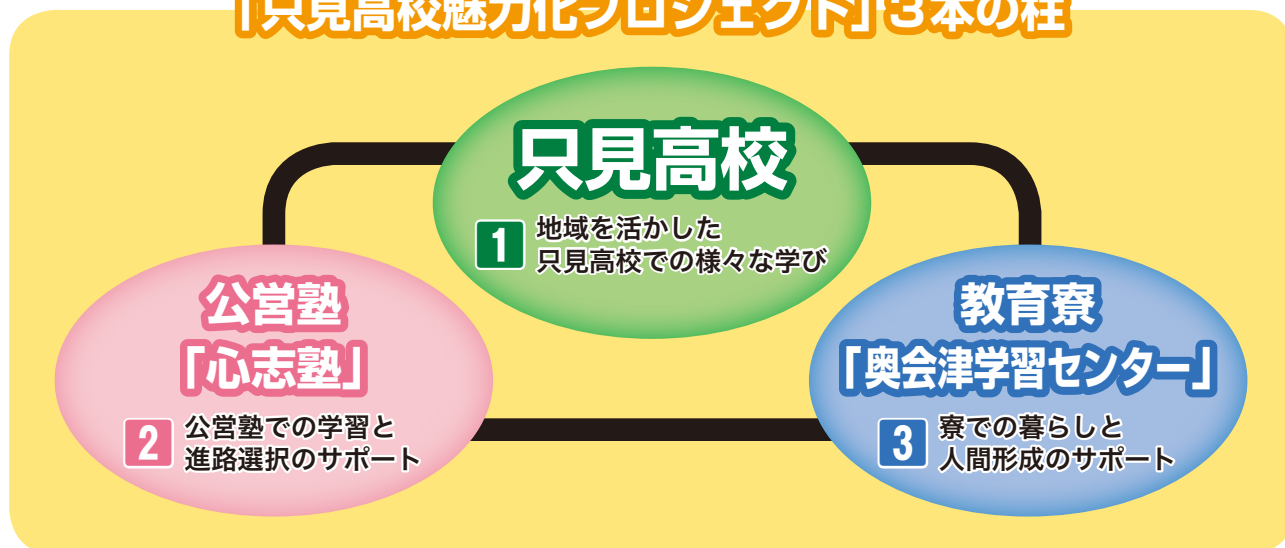


奥会津学習センターの 新体制と生徒の自主性を育成

「只見高校魅力化プロジェクト」3本の柱



只見高校魅力化 プロジェクトとは

只見高校に通う生徒の学びと暮らしを豊かにするため、只見高校・公営塾・教育寮のそれぞれが生徒の学びと暮らしをサポートする協働事業です。

詳しくは魅力化ホームページをご覧ください。

URL : <https://tadamikoukou-miryokuka.jimdofree.com/>

町外からの留学生受け入れを行う「只見町山村教育留学制度」は今年で20年目となります。この制度を利用し、高校の教育寮「奥会津学習センター」には現在25名の生徒が暮らしています。

今年度より寮の運営母体が只見町教育委員会となり、新たなスタッフも迎えて運営が始まりました。また、寮に暮らす生徒一人ひとりがより主体的に学び生活できるよう、新たな取り組みも始まりました。

そのひとつが、生徒たち自身で寮のルールづくりやイベントの企画運営を行う「寮生会」の立ち上げです。例えば、今年の新入生歓迎会は「寮生会」で主催した初のイベントで、寮生全体で交流を深める機会になったのはもちろん、高校生が一つのイベントを企画から運営まで行う、という学びの良い機会にもなりました。

また、ゴールデンウィークには新型コロナウ

イルスの影響により帰省ができないことから、寮生や寮スタッフの提案で、いわなの里での釣り体験や奥会津只見の森キャンプ場でのピザ作り体験を行いました。山や川の美しい景色と美味しい地元の食材を楽しみながら春の只見町を感じました。

他にも、学習センターのある上町地区、原地区の堀払いに高校生と塾スタッフで参加しました。このような行事を通じた地域との交流は、生徒の成長に大きく繋がっていきます。

寮の生活での成長だけではなく、地域行事などでの地域の人との繋がりを通して、只見町の一員としての自覚と自主性を育み、地元から通う生徒と切磋琢磨しながら成長し、山村留学生の第二のふるさととなるように、只見高校、寮のスタッフ、教育委員会一同で取り組んでいきますので、ご協力をお願いします。



寮長

向坂 雄一郎さん

20年という歴史を誇る寮の伝統と良さを伸ばし、生徒や保護者が安心できる寮運営を

只見高校で寮生活を経験した息子さんを持つ向坂さん。
「息子の高校を選択する際、様々な高校、寮を巡りました。中でも只見高校の寮は生徒が生活しやすい環境が整っており、寮スタッフは生徒一人ひとりをよく見て、情熱を持った手厚い対応をしてくれていました。また、町の人も温かく、3年間安心して息子を預けることができました。寮長としてこの寮の良さを伸ばし、今後の情勢が落ち着いたなら、各地の中学校を回って只見の魅力を多くの人に伝えていきたいです」



副寮長

酒井 正則さん

明るい寮生活を通して生徒の自主性を伸ばし、只見が第二のふるさとになってほしい

生徒の自主性を重んじながら優しく、時に厳しく親のように関わってくださる酒井さん。
「手書きメモなどで寮生やスタッフとコミュニケーションをとり、なるべく小さな変化に気づけるようにしています。成人式や、長期休暇を利用して卒業生が顔を見せてくれたときはとても嬉しいです」



食堂の様子

生徒の食の安全を第一に、栄養に気を配りながらおいしいと感じてもらえる食事作り

食中毒を起こさないよう、調理の過程や食品の品質管理を徹底し、細心の注意を払いながら調理に向き合う食堂スタッフ。そんな寮での食事を生徒たちはいつも楽しみにしています。
「加熱する温度や時間、栄養バランスなどの制約のある中、皆においしいと喜んで食べてもらえる食事を作れるように、栄養士さんと相談しながら工夫を凝らしています」(厨房主任・越川由紀さん)

留学生の 新たな取り組み

地域の方にきっかけを頂き、自主的に地域行事へ参加しました。



釣り体験 (いわなの里)



ピザ作り体験 (奥会津たまの森キャンプ場)



掘り出し (只見水路)



寮の掃除

生徒の提案で、釣り体験、ピザ作り体験が行われました。

生徒達自身が考えて、掃除などを行っています。